

香教組第89回大会決議（案）

「教育を取り戻す」と自信たっぷりに断言している安倍政権は、35人以下学級を見送りました。「教育再生実行会議」を発足させ、「心のノート」の復活、6・3・3・4制の見直し、学校6日制への移行などを行おうとしています。また、教育において首長による教育長任命強化や教科書検定制度強化など教育への支配を露骨に強めようとしています。戦時中の教育を取り戻すつもりなのでしょうか。

いじめや体罰が原因で子どもが自ら命を絶つというあってはならない事件が続きました。本来子どもたちの命を育むべき学校で子どもたちの命が失われたことを教職員はしっかりと受け止め、十分話し合い、2度とこのようなことが起きないようにしなければなりません。また、「いじめ」「体罰」などを口実とした行政の教育介入を一層強力に押し進めようとしている点に気をつけなければなりません。

いじめや体罰が起きた背景には、「競争と管理」の教育があります。全国学力・学習状況調査や入試に向けた、テストのためのテスト、テストのためのドリルなど、点を上げようとするのに時間がとられ、学ぶ楽しさを味わうことなく授業が行われています。また、部活動における勝利至上主義など「成果」が求められる中で、「体罰」による指導が行われました。どんな理由があろうと体罰は許されるものではありません。子どもたちの心と体を傷つける暴力です。このような中で、子どもたちは追い詰められ、悩み苦しんでいます。

「競争と管理」の教育ではなく、子どもたちの成長と発達を保障する学校を実現させていかななくてはなりません。いじめを克服する力は、子どもや教育の中にこそあります。子どもたちの困難に寄りそい、子どもたちの声を聞き取るには、子どもたちを大切にしたい学級づくりや学校づくりが不可欠です。

保護者・国民との共同の力で民主教育の推進、国民生活向上などの運動をすすめ、子どもたちの未来を切り拓いていきましょう。

以上、決議します。

2013年2月23日

香川県教職員組合 第89回定期大会